

感染管理の基本は適切な手指衛生から ～「衛生的手洗い」の実習に ATP 検査を活用～



医療編

日本歯科大学東京短期大学

日本歯科大学東京短期大学では、歯科衛生学科の講義において ATP ふき取り検査を取り入れた「衛生的手洗い」の実習を行っている。本稿では同大学非常勤講師の柏井伸子氏による「歯科医院における感染管理」をテーマとした講義の内容と、ATP 検査を用いた手洗い実習の様子などを紹介している。

院内感染防止において手指衛生は極めて重要である。「衛生的手洗い」では、まず流水で手首まで濡らし、石けんをつけ、よく泡立てる。親指は、反対の手でひねるように洗う。さらに指先や手首もしっかりと洗い（手術時であれば肘まで洗う）、流水で石けんを流してから、清潔なペーパータオルで拭き取る。最後にアルコールを擦り込んで手洗い終了となる。柏井氏は「ATP 検査は、数秒で結果がわかり、かつ結果が数値で表示されることから、『手洗いが正しくできているか』を確認する手洗いの効果判定ツール、衛生意識の向上につなげる教育ツールとして非常に効果的である」と語る。